

中学生&高校生が主役 ～私たちの「ふるさとづくり」～

松江市玉湯公民館

1 玉湯公民館の概要

玉湯地区は、出雲風土記にも記され古い歴史をもつ「玉造温泉」を軸とした観光地として知られている。人口約6,200人、世帯数2,200戸余で、管内には玉湯中学校と玉湯小学校・大谷小学校がある。

近年、松江市中心部に隣接することから新興住宅地や集合住宅の増加が目立っている。

市町村合併から4年が経過し、住民の意識は「取り残されることへの不安や危惧」から徐々に「地域の自立と活性化」へと転換しつつある。そして社会生活におけるルール作りやその責任は行政から住民へと移行してきている。

公民館は、住民主体の「まちづくり」への連帯的な意識の高まりに、未来ある「青少年」の力がもたらす効果に着眼した。子どもから大人まで、「生きる力」や「生きがい」を育む地域の拠点として、学校や地域と連携し活動する日々の取り組みが、活力ある「まちづくり」の推進と連動することを期待する。

2 事業の概要

(1) はじめに

①実証事業名

中学生&高校生が主役 ～私たちの「ふるさとづくり」～

②実証事業のテーマ

地元高校生グループ「たまゆめんばーずくらぶ」を核とした「還りたくなる・ふるさと」づくり。

③実証事業のねらい

平成19年9月に発足した地元の高校生活動グループ「たまゆめんばーずくらぶ」(以下、略称「たまめん」と表記)は中学3年生の時に町の文化祭で行った、たこ焼きなどの模擬店での体験活動がきっかけとなっている。地域のボランティアスタッフやPTAに支えられ、いきいきと呼び込みや接客、調理などに励む中学生の姿は地域住民に「玉湯の街が生き返ったようだ」と絶賛された。子どもたちにも満足感と地域の一員として認められているという思いが芽生えた。以来、中学生と地域住民との接点の一つとしてこの活動は定着した。また、卒業後も「たまめん」として公民館活動や地域行事を利用し「このまちと関わった活動をしていこう!」と学業や部活動の合間をぬって活動を進めている。また、それを支える様々な組織の大人たちも連携を強化し、協調して子どもを見守ることで大人同士の繋がりも広がるのが期

待される。子どもの「心のふるさと」づくりはスクラムを組む大人達、そして地域住民へ誇りと愛着の持てる「まちづくり」参画への喚起を呼び起こすことをねらいとする。

(2) 具体的な取組

① たまゆめんばーずくらの活動

ア 定例会 毎月 第1日曜日
企画の相談・準備、近況報告など。



イ はじめて！パンづくり（6月）

町内福祉施設での学生や親子対象のパン作りのサポート。子どもたちはお姉さんたちにうさぎの形を教わり、可愛い出来上がりに大喜びだった。



ウ ペットボトルロケット製作・打上大会（7月）

小・中学生とのペットボトルロケット製作・打ち上げなどの活動をサポートした。子どもたちにとって作る面白さや飛ぶ仕組みの学習など興味や夢の広がるイベントとなった。



エ ジュニアリーダー研修（7月）

小学校生対象の1泊2日のキャンプのサポートをした。テントの設営、薪から火を起こしての炊飯や大鍋での食事作り、山歩きや川遊び、自然体験活動、感動的なキャンプファイヤーなど子どもたちと一緒に思い出をつくった。



オ 江津少年自然の家一泊研修（8月）

宿泊研修のサポートをした。元気な小学校4年生39名と「冒険の森」探検、ペタンク大会、きもだめし、ペンダント作り・・・子どもたちにとって、たまめんは頼もしき相談相手、遊び相手として引っ張りだこの大人気。たまめんにとってもかなり有意義な2日間であった。



カ 星空観察会（8月）

たまめん初の主催行事。城床高原で行う予定であったが雨模様のため公民館で開催した。小学生とペタンク大会で交流後、たまめんが作った特製の焼きそばで腹ごしらえ、後半は松江天文同好会



の方に星について映像を交えての説明に子どもたちは宇宙や星に関心を持ってくれたようだ。

- キ 交通安全フェスティバル I N 玉湯（9月）
交通安全のイベントで出来立てのポップコーンを作り来場者に配り喜ばれた。



- ク たまゆ文化祭（10月）
玉湯中学校生や多くの地域ボランティアと協力してカレーライス、たこ焼き、ドーナツ、フランクフルト、キャラメルポップコーンなどの模擬店を出した。また、館内清掃、イベント準備、緑の募金活動なども行い地域住民との交流を深めた。



- ケ たまゆ福祉のつどい（11月）
イベントとチャリティバザーの準備・運営に地域ボランティアと一緒に協力した。また、ポップコーンを作ってイベントを盛り上げた。



- コ 八雲青少年フォーラムに参加（11月）
八雲で開催されたフォーラムでこれまでの活動を発表する機会を得た。八雲ジュニアサポーターズクラブとは時々交流してきている。今後も連携していく予定である。



- サ わくわくコンサート（12月）
「ノーテレビ運動」の一環として開催された雲南吹奏楽団を招いてのコンサートのサポートをした。子どもからお年寄りまで多数の来場があった。小学生と中学生の演奏もあり心に響く催しとなった。
「たまめん」サンタの登場に歓声と拍手が湧き起こった。プレゼントは心を込めて作ったポップコーンであった。



- シ テレビを消して家庭の日の集い（2月）
地域挙げて取り組んでいる「ノーテレビ運動」。たまめんは定期試験中のため当日は参加出来なかったが、中学生が司会進行を担当した。また、イベントを盛り上げるために、たまめんが企画した特製ポップコーンを中学生が作り来場者に配って啓発した。



ス 広報誌「たまめんNEWS」発行（2月）

たまめんの活動状況を住民に知ってもらうために機関紙を発行し、町内全世帯に配布した。「たまめん」への理解と支援に繋がることを願っている。今後も定期的に発行する予定である。



② 「たまゆメンバーズくらぶ」のサポート

青少年育成玉湯町民会議、子ども会連合会など関係団体では子どもたちの活動を地域で支えるため、イベントの前後に話し合いの場をもってサポートしている。



3 事業の成果と課題

(1) 成果

「たまめん」が地域の行事に参画することで企画にも幅が広がり、小学生やその保護者などの参加が少しずつ増えている。地域住民からは若い彼らがいるととても活気が溢れていると、エールも多く聞かれる。イベントを盛り上げて欲しいとの町内団体からの参加要請も出てくるなど地域住民への認知度・関心度の高まりも感じられる。また、文化祭での出店などは後輩の中学生や保護者の間にも定着してきており、地域の中での体験活動として根付きつつある。宿泊研修で共に過ごした小学生たちにも希薄になってきている異年齢との関わりの楽しさ、親近感を肌で感じ取ることが出来た。保護者をはじめとした地域住民に活動への理解と支援の協力を得るチャンス、住民を巻き込む契機が着実に増えている。

(2) 課題

- ① 「たまめん」メンバーの拡充とリーダーの育成
- ② メンバーの目的意識の高揚
- ③ 企画し易く、魅力あるプログラム作り
- ④ 大人のサポート体制の強化・拡充

4 今後の方向性

「たまめん」活動を継続、軌道に乗せていきたい。メンバー自身に「達成感」や「やり甲斐」と「存在感」が無ければならない。学業や部活動を両立できる活動の在り方も求められる。メンバーの意見を十分に取り込みながら、活動を地域住民や諸団体へ発信して、一人でも多くの支援の輪を拡げ活動実践に繋げていけるよう一歩ずつ進んでいきたい。